

おとうさんのなし

ぼくのいえは、むかしからなしをつくつてあります。内牧の土はおいしいくだものや作物がさいばいできるのだそうです。

ぼくのおとうさんは、一年中、まい日なしの木をしんぱいしています。たとえば、はる、つよいかぜやひょうなどからなしのめと花をまもるために、あみをかけます。天気のいい日には、なしの花ひとつにつに花ふんをつけます。

「大きなみをつけてよ。」

と、こえをかけているときもあります。

なつになり、みがなると、ふくろをかぶせます。なしのせわがいそがしいので、休

(おとうさんは、どうしてこんなにたいへんなしごとをするのだろう。)
なしがいろづきはじめのころ、おとうさんはすこしねつを出してしまいました。でのひらがまつ赤になつていたくなつてしまします。

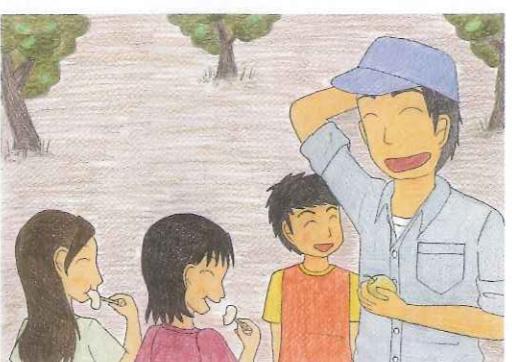
（おとうさんは、どうしてこんなにたいへんなしごとをするのだろう。）
なしがいろづきはじめのころ、おとうさんはすこしねつを出してしまいました。で



をつくろうとしているんだ。）

おとうさんのつくつたなしがみのり、おきやくさんがかいにきました。とおくから、きてくれたそうです。
「あまいねえ。春日部のくだものはおいしいので、ことしもかいにきましたよ。」

おとうさんを見るとうれしそうでした。
「おとうさん、ぼくもなしをつくるしごとを、もつともつと手つだうよ。」



も、おとうさんは、ゆっくりとねていいで、なしの木を見にいきました。
ぼくはしんぱいになつて、
「おとうさん、ちゃんとねていないとダメだよ。」
と、こえをかけました。
すると、

「なしの木はまい日ちゃん

と見て、せわをしないといけないんだよ。おいしい、あまいなしをつくるためには、一日も見のがすわけには、いかないんだ。」

と、おとうさんがいました。そういえば、

いままで、おとうさんがぐあいがわるくてねていたことはありませんでした。
(おとうさんは、ほんとうにおいしいなし

みの日はありません。ぼくは、日よう日はおとうさんのかいしゃが休みになる友だちがうらやましくなるときもあります。

(おとうさんといっしょにあそびにいきたいのにあります。)

あ。)

そして、ぼくの手つだいは、おちたなしをひろうしごとです。たくさんのはなしをかごに入れてはこぶと手のひらがまつ赤になつていたくなつてしまします。

（おとうさんは、どうしてこんなにたいへんなしごとをするのだろう。）
なしがいろづきはじめのころ、おとうさんはすこしねつを出してしまいました。で

（おとうさんは、どうしてこんなにたいへんなしごとをするのだろう。）
なしがいろづきはじめのころ、おとうさんはすこしねつを出してしまいました。で